

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： サステイナブル漁業に向けたデータ指向型リアルタイム解析基盤の開発

2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加期間終了時点）

研究代表者

飯山 将晃（京都大学学術情報メディアセンター 准教授）

主たる共同研究者

田中 裕介（海洋研究開発機構地球情報基盤センター 特任技術副主任）

3. 事後評価結果

○評点：

A 期待通りの成果が得られている

○総合評価コメント：

国連開発計画 SDGs にも取り上げられ、今後も資源保護と経済性を両立させてサステイナブルな漁業の実現のため、海洋環境の予測と漁場予測の開発を漁業者の協力のもとフィールドで実証研究するとともに、サステイナブル漁業実現のための海洋情報サービスのビジネスモデルの検討を行った。

漁場推定においては過去の操業データと3次元時系列の海況データから良漁場を推定する技術を開発し、中央北太平洋のアカイカ漁にでは理論値で漁獲量を38%向上できうることを示し、さらに成果が漁場予測配信サービスに組み込まれ実際の漁業者に配信されるに至った。海況予測においても、衛星画像の雲による欠損を補い海況を推定する技術や、漁船のセンシングデータから On Spot データ同化を行いより高精度に推定する技術など必要な開発を着実にいった。代表者らはスモールフェーズ終了と同時にスタートアップを創業し今後も社会実装を推進する予定であり、研究と事業を両輪で回すこととなった。

情報工学と水産系の融合分野での研究テーマ設定は特徴的であり、情報工学者が特定のドメイン知識（今回は漁業）を深く習得して当該分野の最適化を行なっている。ノルウェー型の管理漁業は中長期的には世界の規範となると思われ、この分野での科学技術と事業モデルを確立しておくことは非常に重要である。漁業から水産物流通に至る複合エコシステムの最適化ソリューションとしての発展を期待する。